

センモンブヤ
専門分野

科目名	地域と健康			担当者	横田和・酒井知美・豊島好江		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	地域社会で生活する人の健康と環境を関連づけて考えることができる。						
到達目標	1. 地域で生活する人々とその家族を知る 2. 地域における様々な場―地区探索を行うことで、生活の実際を知る。 3. 学びにつながるように自ら積極的に取り組む姿勢がみられる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	地域って何だろう ・ 地区探索事前準備①	講義・演習
2	2	地区探索・事前準備②	講義・演習
3	2	地区探索	演習
4	2	地区探索	演習
5	2	地区探索・GW(資料のまとめ)	演習
6	2	地区探索・GW(資料のまとめ)	演習
7	2	地区探索・GW(発表)	演習
8	2	地区探索・GW(発表)	演習

教科書・参考図書	配布資料を保存する。
成績評価方法	授業の取り組み(提出資料・意見・話し合い)、まとめの資料・発表資料
履修上の注意点	主体的な取り組みを期待します。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
横田和:5年間病院にて看護師として勤務
酒井知美:14年間病院にて看護師として勤務
豊島好江:14年間病院にて助産師として勤務

センモンブヤ
専門分野

科目名	生活支援論			担当者	横田和・高橋里砂		
履修学年	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	疾病や障害をもちながらも住み慣れた地域で生活するための支援・援助について考え、「その人らしく」生活するための方法を考えることができる。						
到達目標	1. 人が生活するためのアセスメントについて考える機会となる。 2. 疾病や障害をもちながらもその人らしく生活するためのアセスメントについて事例をとおして考えることができる。 3. 学びにつながるように自ら積極的に取り組む姿勢がみられる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	支援するという事	講義
2～15	2	事例をとおして 病気との付き合い方、生活の仕方を考えていく。 「その人らしく生きる」ためにともに考え、安心して地域で生活できるためのサポートを考えていく。 事例1 認知症をもちながら一人で暮らす人を支える 事例2 ALSで在宅療養を選択した人を支える 事例3 障害児とその家族の状況を理解してクリニックで支援する。 事例4 夫婦ともに精神遅滞を持つ家族を支える 事例5 在宅酸素療法を行う人を支える	演習

教科書・参考図書	配布資料を保存する。
成績評価方法	授業の取り組み(提出資料・意見・話し合い)、まとめの資料・発表資料
履修上の注意点	主体的な取り組みを期待します。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
 横田和:5年間病院にて看護師として勤務
 高橋里砂:13年間病院にて看護師として勤務

センモンブヤ
専門分野

科目名	在宅看護概論			担当者	横田 和		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	地域で生活しながら療養する人々と家族が置かれている状況や抱える問題を理解し、在宅療養生活を支援するための看護の役割および社会資源の活用、関係職種との関連の必要性について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念を説明することができる。 2. 在宅療養者と家族の支援を説明することができる。 3. 在宅療養を支える看護を説明することができる。 4. 在宅ケアを支える制度と社会資源について説明することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	在宅看護の概念、特徴・役割や機能基本理念、倫理的概念、社会的背景	講義
2	2	在宅療養者と家族の支援、在宅看護の対象者、在宅療養者の成立要件、家族看護	講義・演習
3	2		
4	2	地域・在宅看護がかかわる療養の場	講義
5	2		
6	2	ミニテスト 地域医療を支える制度と社会資源 社会資源 医療保険制度 後期高齢者医療制度 介護保険制度 生活保護制度 在宅における各種制度	講義
7	2		
8	2		

教科書・参考図書	「地域療養を支えるケア」メディカ出版
成績評価方法	試験80%、ミニテスト10%、演習10%積極的態度も含む
履修上の注意点	事前に教科書を読んでおく。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
横田和:5年間病院にて看護師として勤務

センモンブヤ
専門分野

科目名	在宅看護方法論Ⅰ			担当者	横田 和		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	訪問看護の概要を理解し、在宅看護を実施するうえで必要な訪問の基本技術を学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けと看護の役割について、社会資源の活用に必要なケアマネジメントの方法について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護の概要を説明することができる。 2. 療養の場の移行に伴う看護について説明することができる。 3. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携について説明することができる。 4. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメントについて説明できる。 5. 終末期における看護について説明できる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	地域・在宅看護の概念①	講義
2	2	地域・在宅看護の概念②	講義
3	2	在宅療養者と家族の支援①	講義
4	2	在宅療養者と家族の支援②	講義
5	2	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護～地域アセスメント～	講義
6	2	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護～地域包括ケアシステム～	講義
7	2	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護～療養の場の移行に伴う看護/地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携～	講義
8	2	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護～在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント～	講義
9・10	4	地域療養を支える制度	講義
11・12	4	在宅療養を支える訪問看護	講義
13	2	在宅看護における安全と健康危機管理	講義
14	2	在宅ターミナル	講義
15	2	まとめ	講義

教科書・参考図書	「地域療養を支えるケア」メディカ出版
成績評価方法	試験80%、ミニテスト10%、演習10%積極的態度も含む
履修上の注意点	事前に教科書を読んでおく。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
横田和: 5年間病院にて看護師として勤務

センモンブヤ
専門分野

科目名	在宅看護方法論Ⅱ			担当者	横田 和		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	在宅療養生活を支える看護について、セルフケア能力を活かし、生活環境を考慮した在宅における生活援助技術を学ぶ。また、医療管理を必要とする療養者・家族への看護 および指導内容を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者生活を支える看護について説明することができる。 2. 生活療養者の病期に応じた看護について説明することができる。 3. 在宅療養者において特徴的な疾病がある療養者の看護を説明することができる。 4. 在宅における医療管理を必要とする人と看護について説明することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	訪問看護の実際	講義
2	2	在宅看護援助論概論	講義
3	2	在宅酸素療法について	講義
4	2	在宅栄養療法について	講義
5	2	褥瘡などのケアについて	講義
6	2	在宅でのターミナルケアについて	講義
7	2	精神疾患患者の訪問看護	講義
8	2	まとめ	講義

教科書・参考図書	「地域療養を支えるケア」メディカ出版
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	事前に教科書を読んでおく。DVD視聴にて理解する。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
横田和:5年間病院にて看護師として勤務

センモンブヤ
専門分野

科目名	在宅看護演習			担当者	横田和・高橋里砂		
履修学年	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象特性に応じたアセスメントができる。 2. 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施できる。 3. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 4. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 5. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	訪問看護に必要な身だしなみ・マナー	講義・演習
2・3	4	在宅療養者への訪問技術(ロールプレイ)	講義・演習
4・5	4	訪問看護ステーション開設GW	講義・演習
6～10	10	在宅における看護過程の展開	講義・演習
10～13	8	在宅療養生活を支える基本的な技術 ・摂食嚥下障害がある人の観察項目・医療的ケア(経腸栄養法・静脈栄養法) ・排泄障害がある人の観察項目・看護ケア(スキンケア・排便コントロール・褥瘡予防) ・医療的ケア(在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法)看護ケア(排痰法・吸引) ・物品の工夫・作成	講義・演習
14・15	4	訪問看護の実際を学ぶ 終末期看護含む	講義

教科書・参考図書	「地域療養を支えるケア」メディカ出版
成績評価方法	試験80%、ミニテスト10%、演習10%積極的態度も含む
履修上の注意点	事前に教科書を読んでおく。DVD視聴にて理解する。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
横田和:5年間病院にて看護師として勤務
高橋里砂:13年間病院にて看護師として勤務

センモンブヤ
専門分野

科目名	成人看護学概論			担当者	田所 亜由美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	成人各期にある人の特性を理解し、成人期に起こりやすい多様な健康課題について家族を含めて対応する看護の役割と健康の保持・増進のための看護を学ぶ。						
到達目標	1. 成人各期にある人の特性・健康問題、健康の保持・増進について説明することができる。 2. 成人への看護アプローチの基本を説明することができる。 3. 成人の看護に有用な理論や概念を理解し、看護への応用について考えることができる。 4. 成人の健康レベルに対応した看護について説明することができる。 5. 学びにつながるように自ら積極的に取り組む姿勢がみられる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	成人期にある人の理解① 成人の特徴と生活	講義
2	2	成人期にある人の理解② 発達課題と発達危機 GW	講義・演習
3	2	成人期にある人の理解③ 青年期、壮年期、向年期 発表	演習
4	2	成人を取り巻く社会情勢(人口動態、疾病構造)	講義
5	2	成人の健康問題、健康課題①(健康を脅かす要因)	講義
6	2	成人の健康問題、健康課題②(成人の生活と健康を守るシステム)	講義
7	2	成人への看護アプローチ①(アンドラゴジー)	講義
8	2	成人への看護アプローチ②(行動変容アプローチ)	講義
9	2	成人看護に有用な理論・概念 GW	講義・演習
10	2	成人看護に有用な理論・概念 GW	講義・演習
11~13	6	健康レベルに応じた患者の理解と看護①~③ GW	演習
14	2	健康レベルに応じた患者の理解と看護④ 発表	演習
15	2	まとめ	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 成人看護学① 成人看護学総論」医学書院
成績評価方法	試験50%、レポート30%、授業の取り組み(提出資料・意見・話し合い)20%
履修上の注意点	主体的な取り組みを期待します。2年次の成人看護学援助論との関連が深い科目です。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
田所亜由美：13年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	成人看護学援助論 I			担当者	小貫三佳・朴木真理		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	身体的に生命の危機状況にある人の救命および生命維持に必要な看護の視点と周手術期にある患者の特徴と手術による侵襲を理解し、日常生活援助や社会復帰に向けての関りを学ぶ。 経過別看護①:急性期一救急看護、周手術期、重症集中ケア						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象の特徴と看護を説明することができる。 2. 救急看護時の看護について説明することができる。 3. 周手術期時の看護について説明することができる。 4. 重症集中ケアの時の看護について説明することができる。 5. 急性期に必要な看護援助技術について習得することができる。 6. 学びにつながるように自ら積極的に取り組む姿勢がみられる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	急性期にある対象の特徴と看護	講義・GW
2	2	手術および麻酔侵襲と生体反応(1)	講義
3	2	手術および麻酔侵襲と生体反応(2)	講義
4	2	手術室における看護(麻酔について)	講義
5	2	手術室における看護(麻酔導入～回復室退室まで)	講義
6	2	術後の看護の知識と技術(1)	講義
7	2	術後の看護の知識と技術(2)	講義
8	2	術後合併症とその看護(循環器合併症)	講義
9	2	術後合併症とその看護(呼吸器・消化器合併症)	講義
10	2	術後合併症とその看護(泌尿器合併症、術後せん妄)	講義
11	2	急性期の看護技術援助 看護過程を通して	講義
12	2	急性期の看護技術援助 看護過程を通して	講義
13	2	急性期の看護技術援助 看護過程を通して	講義
14	2	急性期の看護技術援助 「術後1日目の早期離床のロールプレイ」	演習
15	2	急性期の看護技術援助 看護過程を通してまとめ	演習

教科書・参考図書	成人看護学④周手術期看護 メディカ出版、他配布資料
成績評価方法	試験80%、演習での取り組み20%
履修上の注意点	周手術期の看護において必要な解剖生理学の知識を押え、術後の回復を促進す

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。

小貫三佳:7年間病院にて看護師として勤務

朴木真理:5年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	成人看護学援助論Ⅱ			担当者	田所 亜由美		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	<p>生涯にわたり疾患のコントロールが必要な人が、自己をコントロールしながら生活するための援助を学ぶ。 がん患者の全人的苦痛を理解し、症状の苦痛緩和の方法や日常生活動作の障害に応じた看護を学ぶ。 終末期において尊厳を保ちながら、その人らしく最期まで生きることを支えるための援助を学ぶ。 経過別看護②:慢性期—慢性疾患、がん看護—がん患者、終末期</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期・終末期にある対象の特徴と看護を説明することができる。 慢性疾患、がんの患者の看護について説明することができる。 終末期時の看護について説明することができる。 慢性期に必要な看護援助技術について習得することができる。 終末期に必要な看護援助技術について習得することができる。 学びにつながるように自ら積極的に取り組む姿勢がみられる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	慢性病との共存を支える看護について考える	講義
2	2	化学療法に伴う看護(副作用のアセスメント)	講義
3	2	放射線治療に伴う看護(副作用のアセスメント)	講義
4	2	化学療法・放射線治療に伴う看護ケアについて考える	演習(GW)
5	2	化学療法を受ける患者の看護ケア	演習(GW発表)
6	2	放射線治療を受ける患者の看護ケア	演習(GW発表)
7	2	意思決定支援(ACP) アピアランスケア	講義
8	2	非がん・がん患者の緩和ケア	講義
9	2	全人的苦痛の捉え方	講義
10	2	人生最期の時を支える看護について考える	講義・演習(GW)
11	2	終末期患者の希望を支える看護を学ぶ	講義
12	2	グリーフケア ビリーブメントケア エンゼルケア	講義・演習(GW)
13	2	看護について考える 一体験談から学ぶ— がんゲストスピーカー	講義
14	2	在宅酸素療法(HOT ハイフローセラピー NPPV)	演習
15	2	まとめ	講義

教科書・参考図書	その都度関連する書籍・文献を紹介
成績評価方法	試験60%、レポート20%、授業の取り組み(提出資料・意見・話し合い)20%
履修上の注意点	成人看護学実習の基盤となる実践的な内容である。事前学習をして授業に臨むこ

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
 田所亜由美:13年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	成人看護学援助論Ⅲ			担当者	竹中美樹・山内清美・蘇武貴美子・田中裕子・及川美代・國井五月・鈴木規代・二階堂千恵子・里中紋子		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	
科目目的	系統別看護を学ぶ。 呼吸機能障害、循環機能障害、消化・吸収機能障害(内科・外科)、栄養代謝機能障害、内部環境調整機能障害(腎不全)のある患者の看護						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 呼吸機能障害のある患者の看護について説明することができる。 循環機能障害のある患者の看護について説明することができる。 消化・吸収機能障害(内科・外科)のある患者の看護について説明することができる。 栄養代謝機能障害のある患者の看護について説明することができる。 内部環境調整機能障害(腎不全)のある患者の看護について説明することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～3	6	呼吸機能障害のある患者の看護 ・医療の動向、看護の特徴と役割、呼吸器の動向 ・酸素療法、在宅酸素療法、人口呼吸器、気管切開、胸腔ドレナージ、手術を受ける患者の看護 ・疾患の看護(肺炎、結核、気管支喘息、COPD、肺血栓塞栓、ARDS、SAS、肺がん、気胸)	講義
4～6	6	循環機能障害のある患者の看護 ・集中治療室の看護、周手術期の看護 ・疾患の看護(虚血性心疾患、弁膜症、閉塞性動脈硬化症、心不全、不整脈)	講義
7～9	6	消化・吸収機能障害のある患者の看護 ・医療の動向と看護、検査と治療 ・消化機能障害のある患者の看護	講義
10～12	6	栄養代謝機能障害の患者の看護 ・外科看護 ・内科看護(症状に対する看護、検査治療、疾患の理解、症状に対する看護―胆・肝・膵)	講義
13～15	6	内部環境調整機能障害(腎不全)のある患者の看護 ・腎、泌尿器の検査と看護 ・腎臓内科疾患患者の看護 ・腎代替療法を受ける患者の看護	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 各成人看護学」医学書院、配布資料
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	臨床看護師による講義である。

専門分野

科目名	成人看護学援助論Ⅳ			担当者	五十嵐聖子・玉村浩美・鈴木佳代子・遠藤清己・和田学・今橋理絵・藏野あずさ		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	
科目目的	<p>系統別看護を学ぶ。 内部環境調整機能障害(糖尿病)、身体防御機能の障害(感染、免疫)(血液・造血器)、脳・神経機能障害、運動機能障害、性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護</p>						
到達目標	<p>1. 内部環境調整機能障害(糖尿病)のある患者の看護について説明することができる。 2. 身体防御機能の障害(感染・免疫)のある患者の看護について説明することができる。 3. 身体防御機能の障害(血液・造血器)のある患者の看護について説明することができる。 4. 脳・神経機能障害のある患者の看護について説明することができる。 5. 運動機能障害のある患者の看護について説明することができる。 6. 性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護について説明することができる。</p>						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～3	6	身体防御機能障害のある患者の看護 ・アレルギー疾患の看護	講義
4～6	6	身体防御機能障害のある患者の看護 ・血液・造血器障害のある患者の看護	講義
7～9	6	運動機能障害のある患者の看護 ・頸椎・腰椎 ・下肢 ・注意したい症状	講義
10～12	6	脳・神経機能障害のある患者の看護	講義
13	2	乳腺機能障害のある患者の看護	講義
14～15	4	内部環境調整機能のある患者の看護 糖尿病	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 各成人看護学」医学書院、配布資料
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	臨床看護師による講義である。

専門分野

科目名	成人看護学演習			担当者	田所亜由美・朴木真理		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	成人看護における臨床看護技術ができる。 「慢性病を持つ対象へのセルフマネジメント支援」「周手術期」						
到達目標	1. 成人臨床看護技術:セルフマネジメント支援の視点で説明できる。 2. 成人臨床看護技術:周手術期に必要な看護技術について説明できる。 3. 事例の看護過程の展開ができる。 4. 他者にわかるように伝えるため、自ら達成に向けて取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～5	10	1. 成人臨床看護技術:セルフマネジメント支援の視点で説明できる。 肝硬変の患者、腎不全、がん性疼痛緩和ケア、膠原病、慢性心不全、糖尿病 各機能障害の事例の看護過程の展開(演習)	講義・演習
6～15	20	2. 成人臨床看護技術:周手術期に必要な看護技術について説明できる。 消化器系の手術を受ける患者の看護 ストーマ造設の患者 胸部外科手術を受ける患者の看護 乳癌手術を受ける患者の看護 泌尿器系術前・術後 上記患者の事例の看護過程の展開(演習)	講義・演習

教科書・参考図書	系統看護学講座 医学書院を活用する。配布資料。
成績評価方法	講義・演習への積極的参加・事例の看護過程の提出にて評価
履修上の注意点	必ず看護過程は期限を守って提出すること。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
田所亜由美:13年間病院にて看護師として勤務
朴木真理:5年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	老年看護学概論			担当者	古澤 美智子		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	高齢者の特性を統合的に捉え、ライフサイクルにおける老年期とその健康課題を学ぶ。高齢者を取り巻く社会環境から、保健・医療・福祉の動向と諸問題を学び、看護役割を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の理解の基本となる概念について説明することができる。 2. 高齢者の生活と高齢者を支える保健・医療・福祉の動向を説明することができる。 3. 高齢者の健康について考えることができる。 4. 多様な生活の場で展開する高齢者の看護を説明することができる。 5. 老人疑似体験をとおして高齢者の理解をすることができる。 6. 学習の場に積極的に参加することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	老いるということ、老いを生きるということ	講義
2	2	老年看護の基盤 老年期における倫理的な課題	講義
3	2	高齢者の理解	講義
4	2	高齢者とヘルスプロモーション	講義
5	2	高齢者を取りまく社会	講義
6	2	高齢者看護の基本 人生最終段階にある高齢者の看護 エンド・オブ・ライフケア	講義
7	2	高齢者とのコミュニケーション	講義
8	2	高齢者理解 : 老人疑似体験	演習

教科書・参考図書	「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
成績評価方法	試験80%、演習・課題20%
履修上の注意点	動画(ナーシングチャンネル)視聴あり。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
古澤美智子：16年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	老年看護方法論			担当者	古澤 美智子		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	老年期にある加齢による生活行動や行動レベルが低下した対象と家族に対する生活を支える看護を学ぶ。老年看護における基本的技術を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の基本的考え方や対象の捉え方を説明することができる。 2. 高齢者の生活を支える看護について説明することができる。 3. 老年看護における基本的技術について習得することができる。 4. 自らやるべきことに気づき、取り組む姿勢が見られる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1・2	4	老年看護の基本	講義
3	2	高齢者の生活を支える看護 食事・排泄（臨床看護師）	講義
4	2	高齢者の生活を支える看護 休息と睡眠・清潔（〃）	講義
5	2	高齢者の生活を支える看護 セクシュアリティ、服薬管理（〃）	講義
6・7	4	老年看護における基本的技術（臨床看護師）	講義・演習
8	2	高齢者を取り巻く保健・医療制度—介護保険	講義
9	2	高齢者を取り巻く保健・医療制度—地域包括ケア	講義
10	2	高齢者を取り巻く保健・医療制度—認知症福利制度	講義
11	2	認知症予防 認知症サポーター	講義・演習
12～15	8	老年看護における基本的技術 ・排泄：便秘、失禁のある患者 ・清潔：口腔ケア、浴槽体験 ・麻痺のある患者の移動、転倒転落予防	演習

教科書・参考図書	「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
成績評価方法	試験80%・講義・演習への積極的参加・レポート20%
履修上の注意点	講義を受け、老年看護の技術を学ぶ。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
古澤美智子：16年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	老年臨床看護			担当者	古澤 美智子		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	老年期にあり健康障害のある対象に応じた看護技術を学ぶ。施設や地域において、高齢者のニーズに基づく看護活動を展開するための知識を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にあり健康障害のある対象に応じた看護援助を説明することができる。 2. 施設や地域において、高齢者のニーズに基づく看護活動の展開をするための知識を身につける。 3. 話を聞くことで学びにつなげていける姿勢をもつことができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1~8	2×8	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> ① 高齢者のアセスメント ② 寝たきり・廃用性症候群の看護 ③ めまい・脱水・熱中症・痛みと看護 2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症と看護 ② 主な疾患・障害と看護 3. 治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護 4. 高齢者と家族を対象とした看護活動の実際について聞く 	講義・演習

教科書・参考図書	「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
成績評価方法	試験80%・講義・演習への積極的参加・レポート20%
履修上の注意点	高齢者の看護を学ぶ。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
古澤美智子：16年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	老年看護学演習			担当者	古澤美智子・菅野明美		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	老年期の対象を生活の視点から総合的にアセスメントし、援助するための基本的な看護技術を学ぶ。						
到達目標	1. 老年看護技術を演習を通して考えることができる。 2. ヘルスケア・アセスメントができるようになる。 3. 他者にわかるように伝えるため、自ら達成に向けて取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～3	6	高齢者の生活についてまとめよう	演習
4～5	4	高齢者のリスクマネジメント ロールプレイ ・転倒・転落、誤嚥、窒息、チューブ類の自己抜去	演習
6	2	認知症をもつ高齢者とのコミュニケーション	演習
7～11	10	事例によるヘルスアセスメント・アセスメントの実際	講義・演習
12～15	8	高齢者の介護保健施設での看護の実際 ・アセスメント ・在宅サービスの利用 ・高齢者のレクリエーション ・介護負担	講義・演習

教科書・参考図書	資料配布
成績評価方法	看護過程の提出、演習の取り組みにて評価する。
履修上の注意点	事例の提出は期限を守り必ず提出をする。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
 古澤美智子：16年間病院にて看護師として勤務
 菅野明美：18年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	小児の成長と発達			担当者	小貫 三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	小児看護における目標や役割、倫理、権利を学び、看護の特徴を理解する。小児の成長発達や小児を取り巻く社会環境と養護について理解する。						
到達目標	1. 子どもを取り巻く社会・環境の理解をし、看護の特徴を説明することができる。 2. 小児の成長と発達を説明することができる。 3. 子どもの発達段階に応じた看護を考えることができる。 4. 常に自己の課題を考えながら達成に向けて取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	子どもを取り巻く社会・環境の理解 こども観 ビデオ「小児」	講義
2	2	子どもの成長と発達 エリクソン、ピアジェ ・子どもの権利	講義
3	2	子どもの成長と発達 乳児の発達 ビデオ「あかちゃんの1日」	講義
4	2	子どもの成長と発達 乳児の発達 離乳食含む	講義
5	2	子どもの成長と発達 幼児の発達 ビデオ「さくらんぼ坊や」	講義
6	2	子どもの成長と発達 幼児の発達 課題:発達カレンダー	講義
7	2	子どもの成長と発達 学童の発達	講義
8	2	子どもの成長と発達 思春期の発達	講義

教科書・参考図書	「ナースンググラフィカ 小児の発達と看護」メディカ出版
成績評価方法	試験80%、演習・課題20%・演習への積極的参加を含む
履修上の注意点	動画(ナースングチャンネル)視聴あり。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
小貫三佳:7年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	小児の発達と看護			担当者	小貫 三佳		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	健康課題が小児や家族に及ぼす影響、入院が子どもと家族に与える影響を理解し、成長発達に応じた関りと看護援助を学ぶ。小児看護における技術を学ぶ。検査や処置を受ける子どもと家族への看護援助を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達段階に応じた看護について説明することができる。 2. 小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護について説明することができる。 3. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護について説明することができる。 4. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護を説明することができる。 5. 診療に伴う技術と看護:プレパレーションと看護について演習を行い実際について理解することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	子どもの発達段階についてのアセスメント①	講義・演習
2	2	子どもの発達段階についてのアセスメント② 遊びについて・絵本紹介	講義・演習
3	2	小児の安全について 小児安全マップ作成	講義・演習
4	2	小児看護の役割 子どもの権利について	講義
5	2	子どもの病気の理解	講義
6	2	子どもの病気の理解	講義
7	2	病気や診療・入院が子どもに与える影響・ストレス	講義
8	2	検査や処置を受ける子どもと家族の看護 プレパレーション	講義
9	2	検査や処置を受ける子どもと家族の看護 腰椎穿刺・骨髄穿刺をとおして	講義
10~12	6	症状別看護	講義
13~15	6	プレパレーションの実際・発表	講義・演習

教科書・参考図書	「ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護」メディカ出版
成績評価方法	試験80%、演習・課題20%・演習への積極的参加を含む
履修上の注意点	動画視聴あり。小児のイメージをもつようにする。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
小貫三佳:7年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	小児臨床看護			担当者	小柳ひとみ・菊池久美子・大内圭子		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	健康課題をもつ小児と家族に対して、成長発達を踏まえた看護援助を学ぶ。小児看護技術を習得する。						
到達目標	1. 健康課題をもつ小児と家族に対して、成長発達を踏まえた看護援助を説明することができる。 2. 学びにつながるように自ら積極的に学習に取り組む姿勢がみられる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	子どもと家族の急性期看護	講義
2	2	周手術期における子どもと家族への看護	講義
3	2	慢性期にある子どもと家族への看護 痛みのある子どもと家族の看護	講義
4	2	小児外来看護、災害看護	講義
5	2	被虐待児と家族への看護 終末期にある子どもと家族の看護	講義
6・7	4	新生児の看護、低出生児の看護 NCPR2020	講義
8	2	検査や処置を受ける子どもと家族の看護	講義

教科書・参考図書	「ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護」メディカ出版
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	動画視聴あり。小児のイメージをもつようにする。

専門分野

科目名	小児看護学演習			担当者	小貫 三佳		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	小児看護における看護過程の展開を学ぶ。						
到達目標	1. 事例を用いてアセスメントを行い、問題の抽出、看護計画の立案をすることができる。 2. 小児の看護技術を習得することができる。 3. 他者にわかるように伝えるため、自ら達成に向けて取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～8	15	事例による看護過程の展開 ・小児気管支喘息・川崎病	講義・演習
9～15	14	小児看護技術 * 事前学習後演習を行う。 ・小児のバイタルサイン ・小児の身体計測 ・子どもの療養環境 ・子どもの着脱・おむつ交換・おんぶ・抱っこ ・点滴療法時の看護 シーン固定 ・子どもの検体採取ー採尿パック ・診察時の介助 ・検査時の介助 ・経口与薬 ・救急救命 小児の酸素療法、吸入	講義・演習

教科書・参考図書	「ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護」メディカ出版
成績評価方法	看護過程の提出、演習の取り組みにて評価する。
履修上の注意点	事例の提出は期限を守り必ず提出をする。DVDの視聴あり

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
小貫三佳：7年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	母性看護学概論			担当者	豊島 好江		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	女性のライフサイクル各期における看護、リプロダクティブ・ヘルスに関する看護、妊娠・分娩・産褥期および早期新生児における看護の対象と基盤になる概念を理解する。母性を取り巻く社会の現状と母子保健施策について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念について説明できる。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を説明することができる。 3. 妊婦体験を通して、母性看護の対象を理解し述べるができる。 4. 女性のライフサイクル各期における看護を説明することができる。 5. リプロダクティブ・ヘルスに関する看護について考えることができる。 6. 母性看護の倫理について考えることができる。 7. 学習の場に積極的に参加することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	母性看護基盤となる概念 定義・対象	講義
2	2	愛着、母子相互作用、家族の発達、セクシュアリティ	講義
3	2	リプロダクティブ・ヘルスケア	講義
4	2	母性看護における倫理 ビデオ「出生前診断」	講義
5	2	母性を取り巻く社会の現状と母子保健施策 母子保健・統計・法律	講義
6	2	母性看護の対象理解 DVD「もうすぐ出産」	講義
7	4	妊婦体験	演習
8	2	女性のライフサイクル各期における健康と看護	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論」医学書院
成績評価方法	試験80%、演習・課題20%・演習への積極的参加を含む
履修上の注意点	動画(ナーシングチャンネル)視聴あり。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
豊島好江:14年間病院にて助産師として勤務

専門分野

科目名	正常な経過をたどる妊産褥婦の看護			担当者	豊島 好江		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	妊娠期・分娩期・産褥期・早期新生児の看護について学ぶ。						
到達目標	1. 妊娠期における看護について説明することができる。 2. 分娩期における看護について説明することができる。 3. 産褥期における看護について説明することができる。 4. 早期新生児における看護について説明することができる。 5. 学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護の対象と基盤となる概念(ウェルネス思考)	講義
2	2	妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護の対象と基盤となる概念(父性・父親役割)	講義
3	2	妊娠期の看護:正常な妊娠の経過	講義
4	2	妊娠期の看護:妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント	講義
5	2	妊娠期の看護:産婦と家族への看護	講義
6	2	分娩期の看護:正常な分娩の経過	講義
7	2	分娩期の看護:産婦・胎児の健康のアセスメント 胎児心拍数モニタリング判読・胎盤計測	講義
8	2	産婦の補助動作の確認/産婦の産痛緩和 陣痛促進の援助 骨盤ケア(トコちゃんベルト)	講義
9	2	新生児期における看護	講義
10	2	新生児期における看護	講義
11	2	産褥期における看護:正常な産褥の経過	講義
12	2	産褥期における看護:育児支援の実際・初回授乳指導など	講義
13	2	初回授乳指導(手順書作成)	演習
14	2	沐浴指導(手順書作成) 新生児の沐浴・清拭	演習
15	2	まとめ	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②」医学書院
成績評価方法	試験80% 演習への積極的参加・レポート 20%
履修上の注意点	

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
豊島好江:14年間病院にて助産師として勤務

専門分野

科目名	異常な経過をたどる妊産褥婦の看護			担当者	笹井茉莉・上岡潤子・高林佳那恵		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	妊娠期・分娩期・産褥期・早期新生児の異常に対する看護を学ぶ。 母性看護技術を学ぶ。						
到達目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・早期新生児の異常に対する看護が説明することができる。 2. 学びにつながるように自ら積極的に学習に取り組む姿勢がみられる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法	
1～8	16	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護	講義	助産師

教科書・参考図書	「統計看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②」医学書院
成績評価方法	試験80% 演習・課題20% 演習への積極的参加を含む
履修上の注意点	

専門分野

科目名	母性看護学演習			担当者	戸崎由美子・豊島好江		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	母性看護における看護過程の展開を学ぶ。						
到達目標	1. 事例を用いてアセスメントを行い、問題の抽出、看護計画の立案をすることができる。 2. 母性の看護技術を習得することができる。 3. 自ら演習に積極的に取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	母性看護における看護過程の考え方	講義
2	2	母性看護における看護過程の考え方	講義
3	2	正常分娩時の看護過程	演習
4	2	正常分娩時の看護過程	演習
5	2	帝王切開時の看護過程	演習
6	2	帝王切開時の看護過程	演習
7	2	発表	演習
8	2	まとめ	演習
9	2	母性看護に必要な技術	講義
10~15	12	沐浴・ドライテクニック	演習
		レオポルド触診法・腹囲測定・子宮底測定	演習
		ドップラー児心音聴取・胎児心拍数モニタリング	演習
		褥婦の観察の仕方(ロールプレイ)	演習
		授乳の仕方・新生児の観察・計測	演習

専門分野

科目名	精神保健			担当者	小野寺 友美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	人間の精神発達をふまえ、すべてのライフサイクルにおける精神の健康と、それに影響を与える要因を理解することができる。						
到達目標	1. 精神保健の基本について説明することができる。 2. 精神(心)のとらえかた、発達に関する主要な考え方について説明することができる。 3. 精神(心)の健康について考えることができる。 4. 精神(心)の危機状況と精神保健について説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	精神看護学で学ぶこと	講義
2	2	精神のとらえかた①(脳の構造と認知機能)	講義
3	2	精神のとらえかた②(精神(心)の構造と働き)	講義
4	2	精神(心)の発達に関する主要な考え方	講義
5	2	家族と精神(心)の健康(理論家の考え方)	講義
6	2	暮らしの場と精神(心)の健康	講義
7	2	精神(心)の危機状況と精神保健(ストレスコーピング)	講義
8	2	現代社会と精神(心)の健康	演習

教科書・参考図書	「新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健」メディカルフレンド社
成績評価方法	試験80%・まとめのレポート20%
履修上の注意点	私語厳禁

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
 小野寺友美：11年間市町村保健センターにて保健師として勤務

専門分野

科目名	精神看護学概論			担当者	大沼 キヨイ		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	精神保健医療福祉の歴史と法や施策を学ぶ。人権尊重・権利擁護、リハビリについて理解し、精神看護実践の基礎となる考え方や態度を養う。						
到達目標	1. 精神看護の考え方について理解することができる。 2. 精神医療・看護の対象者について説明することができる。 3. 精神保健医療福祉の歴史について説明することができる。 4. 精神障害をもつ人を守る法・制度について説明することができる。 5. 精神保健福祉法における医療の形態・患者の処遇と権利擁護について説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	精神看護とは、精神看護の役割の広がり、精神看護の専門性	講義
2	2	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿ー精神医療の歴史	講義
3	2	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿ー精神障害をもつ人を守る法・制度	講義
4	2	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿ー精神保健福祉法における医療の形態、入院患者の処遇と権利擁護	講義
5	2	精神の健康と精神の障害 疾患モデル、障害モデル、ICF	講義
6	2	精神障害をもつ人の生活支援	講義
7	2	精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整	講義
8	2	地域精神保健福祉活動	講義

教科書・参考図書	「新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健」メヂカルフレンド社 「新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護」メヂカルフレンド社
成績評価方法	試験80%・まとめのレポート20%
履修上の注意点	精神病態学にて学習した知識を生かしていく。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
大沼キヨイ:12年間病院にて看護師として勤務

専門分野Ⅱ									
科目名				精神看護方法論		担当者		山名俊章・小國京子・成田さとみ	
履修学年		2年次		単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的		精神看護の対象の理解と支援のための概念の理解をする。主な精神疾患・障害の特徴と看護について理解する。社会資源の活用とケアマネジメントについて学ぶ。							
到達目標		1. 精神疾患・障害の特徴と看護について説明することができる。 2. 社会資源の活用とケアマネジメントについて説明することができる。							

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	精神科看護師の役割	講義
2	2	統合失調症・妄想性障害	講義
3	2	双極性障害・うつ病	講義
4	2	不安症・PTSD	講義
5	2	認知症・てんかん	講義
6	2	薬物療法・電気けいれん療法	講義
7	2	統合失調症・うつ病・強迫性障害(演習)	講義
8	2	症状別看護	講義
9	2	安全管理、リスクマネジメント	講義
10	2	リスクマネジメント 自殺	講義
11	2	行動制限－隔離、身体拘束	講義
12	2	安全な治療環境の提供 離院・長期入院の問題	講義
13	2	思春期について	講義
14・15	4	入院から社会生活への継続－精神看護援助論	講義

教科書・参考図書	「新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護」メヂカルフレンド社
成績評価方法	試験80%・まとめのレポート20%
履修上の注意点	精神病態学にて学習した知識を生かしていく。

専門分野

科目名	精神看護学演習			担当者	小野寺友美・大沼キヨイ		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	精神障害をもつ人とのかかわり方、看護援助の展開について学ぶ。精神看護における看護過程の展開を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害をもつ人とのかかわりについて説明することができる。 2. 精神障害をもつ人とのコミュニケーション技法について習得する。 3. 精神障害をもつ人との関係の振り返りプロセスレコードで振り返るための学びができる。 4. 症状アセスメント・ケアプランについて説明できる。 5. 事例を用いてアセスメントを行い、問題の抽出、看護計画の立案をすることができる。 6. 他者にわかるように伝えるため、自ら達成に向けて取り組むことができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	精神疾患をもつ患者・看護師の関係	講義
2	2	プロセスレコード	講義
3	2	セルフケアへの援助	講義
4	2	アセスメント・ケアプラン— 幻覚、妄想、強迫、依存、躁状態、うつ状態、自殺	講義
5	2	アセスメント・ケアプラン—認知症、せん妄、依存	講義
6～15	15	事例による看護過程の展開	講義・演習

教科書・参考図書	配布資料を保存する。
成績評価方法	看護過程の提出、演習の取り組みにて評価する。
履修上の注意点	事例の提出は期限を守り必ず提出をする。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
 小野寺友美：11年間市町村保健センターにて保健師として勤務
 大沼キヨイ：12年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	医療安全			担当者	小関 道代		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	看護・医療事故の基本的知識を学び、安全の重要性を理解する。事故発生のメカニズムを学び医療事故を防止するための医療安全の行動がとれる基礎的能力を身につける。医療現場における倫理的判断の必要性を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と看護の概念について理解することができる。 2. 医療安全への取り組みと医療の質の評価が説明できる。 3. 医療事故発生のメカニズムとリスクマネジメントについて説明することができる。 4. 看護における医療事故と安全対策について説明することができる。 5. 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策について考えることができる。 6. 医療事故後の対応について説明することができる。 7. 看護学生の実習と安全について考えることができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	医療安全と看護の理念、医療安全の重要性、看護職の法的規定と医療安全	講義
2	2	ミニテスト 医療安全への取り組みと医療の質の評価	講義
3	4	ミニテスト	講義・演習
4		医療事故発生のメカニズムとリスクマネジメント、事故の発生のメカニズム、事故分析、事故対策	
5	4	ミニテスト 看護における医療事故と安全対策（患者の誤認防止策の実施、安全な療養環境の整備、放射線の被ばく防止策の実施） 看護業務と事故発生要因 医療事故の種類:その分析 (インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告)	講義・演習
6			
7	2	ミニテスト 専門職としての医療事故について考える 医療事故後の対応	講義
8	2	ミニテスト 看護学生の実習と安全 実習中の事故に関する法的責任 事故への備え 実習中の事故を予防する方法 看護技術のリスクと安全 実習における安全への対応	講義

教科書・参考図書	「ナースング・グラフィカ 医療安全」メディカ出版
成績評価方法	試験70%、ミニテスト20%、演習10%
履修上の注意点	臨地実習で実践できるように学ぶ。

専門分野

科目名	薬物療法と看護			担当者	教員		
履修学年	3年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	薬物療法と看護について理解する。						
到達目標	1. 薬物療法と看護の基礎知識について説明することができる。 2. 対象に応じた自己管理の在り方がわかる。 3. 服薬支援と与薬について考えることができる。 4. 薬物療法における安全管理について説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	薬物療法と看護の基礎知識	講義
2	2	対象に応じた自己管理	講義
3	4	服薬支援と与薬	講義・演習
4			
5	6	事例に応じた薬物療法の基礎的知識もとづいた薬物管理 ロールプレイの実施	講義・演習
6			
7			
8	2	薬物治療における安全管理（人体へのリスクの大きい薬剤 野ばく露予防策の実施）	講義

教科書・参考図書	「基礎看護技術」メヂカルフレンド社
成績評価方法	試験80%、演習20% 演習時の積極的参加度
履修上の注意点	臨地実習で実践できるように学ぶ。

専門分野

科目名	国際看護・災害看護			担当者	青木正志・安田貢		
履修学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	
科目目的	世界の健康問題の現状と国際協力のしくみについて理解し、異なった文化や社会における問題を解決していく必要性を学ぶ。 災害の特徴、災害医療および看護の基本を理解するとともに、災害各期の看護に必要な知識、急性期の救護活動に必要な基本的救護技術を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の健康問題の現状と国際協力のしくみについて理解することができる。 2. 災害看護の基本を説明することができる。 3. 災害各期の看護に必要な知識を身につけることができる。 4. 急性期の救護活動に必要な基本的救護技術を説明することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	国際看護とは	講義
2	2	日本国内にいる外国人への看護	講義
3・4	4	日本国外での看護、国内での看護の実際	講義
5～7	6	発展途上国での看護、SDGsと医療	講義
8・9	4	災害概要、災害看護の目標、医療の変化、トリアージ	講義
10・11	4	災害時の疾患、疾病構生変化、医療システム	講義
12・13	4	避難所の問題、生活不活発病、関連死、心理・精神的問題	講義
14	2	災害医療(東日本大震災、常総水害など)	講義
15	2	新型コロナウイルス感染症、ドクターヘリについて	講義

教科書・参考図書	「国際看護」南山堂、「災害看護」
成績評価方法	試験100%にて評価する。
履修上の注意点	

専門分野

科目名	臨床看護の実践演習			担当者	教員		
履修学年	3年次	単位数	1単位	時間数	45時間	実務経験の有無	有
科目目的	卒業後に実践できるように、対象の状態に応じた看護を実践す能力を身につける。						
到達目標	1..対象の状態に応じた看護を実践する能力を習得する。 2. 自らやるべきことを見つけ、積極的に取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1～11	22	看護の統合実習前「看護技術演習」・「看護実践現場の多重課題演習」・「複数患者の受け持ちによる実践」 例: 点滴の滴下が不良になる 例: 息苦しさなどの症状が出る 例: ふらついて転倒しそうになる 上記例の患者の多重課題や看護技術などグループで考えシュミレーションを行い、発表し意見の交換を行う。	演習
12～23	24	看護の統合実習後 ・事例の知識の学習 ・事例について各自臨床判断する ・グループで考え実際にロールプレイを行い発表し意見の交換を行う。	演習

教科書・参考図書	配布資料を保存する。
成績評価方法	講義への積極的参加・毎回のレポート80% まとめのレポート20%
履修上の注意点	

専門分野

科目名	看護管理			担当者	宮本 康子		
履修学年	3年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	看護管理システムを学ぶことで、チーム医療の重要性やリーダーシップ、メンバーシップ能力の必要性を理解する。卒業後に実践できるように、対象の状態に応じた看護を実践する能力を身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理システムを理解することができる。 2. 看護師の仕事とその管理について説明することができる。 3. 看護管理に求められる能力を身につける。セルフマネジメントのスキルを身につけることができる。 4. 自らやるべきことを見つけ、積極的に取り組むことができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1・2	4	看護管理とは	講義
3・4	4	看護管理過程	講義
5・6	4	患者の権利擁護と看護倫理、安全管理体制	講義
7・8	4	看護管理のスキル、法律、制度	講義

教科書・参考図書	「看護管理」メディカ出版
成績評価方法	講義への積極的参加・毎回のレポート80% まとめのレポート20%
履修上の注意点	

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
宮本康子:37年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	看護研究			担当者	宮本 康子		
履修学年	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	看護研究の原理と方法を理解し、学習した知識技術をもとに、学生個々のテーマに基づいた研究過程の実践をとおして、看護を科学的に実践する態度を養う。						
到達目標	1. 看護研究の原理と方法を理解することができる。 2. 論理的な思考のもと、論文を作成することができる。 3. 研究した成果の発表をすることができる。 4. 看護を科学的に実践する態度を身につける。 5. 課題に対して積極的に取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1・2	4	ケーススタディとは 理論の活用、文献検索	講義
3	2	ケーススタディに役立つ看護実践	講義
4	2	ケーススタディのまとめ方	講義
5・6	4	ケーススタディの論文のまとめ方	講義
7	2	抄録作成の仕方とプレゼンテーション	講義
8～11	8	ケーススタディ発表会	演習
12～15	8	ケーススタディ発表会	演習

教科書・参考図書	配布資料を保存する。 ケーススタディ参考書
成績評価方法	講義への積極的参加・毎回のレポート80% まとめレポート20%
履修上の注意点	

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
宮本康子:37年間病院にて看護師として勤務